



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 95 号

R5.1.26

文責 中西 勉



凍てつくような寒さの中でも・・・

今朝、岡崎では、夜明け前の午前7時に、最低気温－7.0℃を観測しました。岡崎の最低気温の観測史上1位の値は、1985年と1999年に記録した－7.6℃ですので、今朝はそれとかなり近い厳しい冷え込みであったと言えます。しかし、子供たちは、凍てつくような寒さの中でも、通学班で元気に登校してきました。今朝、私は西門近くの横断歩道のところで登校指導をしていましたが、子供たちは防犯パトロール隊の方々や私に対して、元気よく「おはようございます」と挨拶ができていました。

その後、気温は少しずつ上昇しましたが、午前8時で－4.1℃、午前9時で－0.7℃と、授業が始まっても氷点下のままでした。そんな中にも関わらず、運動場や体育館では、寒さを吹き飛ばすかのように、とても元気よく体育の授業で活動する子供たちの姿が見られました。運動場では、3年2組がサッカーを、6年3組が持久走を行っていました。また、体育館では、2年1組がみんなでテニピンを楽しんでいました。依然として、岡崎市内では新型コロナやインフルエンザの流行が続いていますが、男川っ子には、寒さに負けずに体を鍛えて、健康に毎日の生活を送ってほしいと思います。



3年2組



6年3組



2年1組



「ジュニア家康公検定」に挑戦！

1月8日（日）から放送が始まったNHK大河ドラマ「どうする家康」。岡崎が大河ドラマの舞台となるとあって、市ではそれを好機ととらえ、積極的な観光PRが行われています。その一環として、これまで一般向けに行われてきた「家康公検定」に加え、今回、小学生を対象とした「ジュニア家康公検定」が開催されました。去る1月13日（金）に行われた検定には、本校の6年生も参加し、一人一人が全50問に挑戦しました。検定に向けて、タブレットのアプリで、徳川家康にまつわる様々な事柄について学んできた子供たちですが、本番の検定ではその内容を上回る難易度の高い問題が出題され、かなり苦戦したようです。しかし、これをきっかけとして、子供たちには、徳川家康が日本の歴史の中で果たした大きな役割について理解を深めると共に、その生き様からも多くのことを学んでもらいたいです。



▲「ジュニア家康公検定」学習用アプリ（市HPより）